（様式１）

整理番号 4

参考となる成果整理表

生物餌料を用いないウグイの種苗生産

福島県内水面水産試験場　生産技術部

1　部門名

水産業－内水面（増養殖）－内水面養殖業

2　担当者名

遠藤雅宗・坂本　啓・渡邉昌人

3　要旨

当場では従来、施肥で餌となる動物プランクトンを発生させてウグイ種苗を生産している。しかし、動物プランクトンの発生状況は天候や水温に影響を受けるため、不安定である。そこで、配合飼料のみでウグイ種苗を生産する手法を検討した（表 1）。その結果、生残率は 50%（従来は 45.5%）であり、従来と遜色のない生産結果になった。

（1）ふ化後 10 日目の仔魚 12 万尾を 300m^3 コンクリート製屋外池に放養し、河川水に溶かしたアユ用粉末飼料（日清丸紅飼料(株)、アユゴールド No.2、1 日に総魚体重の 20%）を池側面から給餌した。給餌後、仔魚の消化管内に飼料が確認された。

（2）ふ化後 26 日後に水面での摂餌が確認され、コイ用粉末飼料（NOSAN、ニューカープマッシュ、1 日に総魚体重の 20%）に切り替えた。ふ化後 44 日目にコイ用クランブル飼料（NOSAN、コイ 2 号）の摂餌を確認し、自動給餌器で給餌を始めた。

（3）総魚体重は平均魚体重に放養尾数を乗じて算出した。注水量は溶存酸素濃度が 6mg/L 以上になるように調整し、水温は 17.7～30.1°Cで推移した。9 月 26 日に 3 g サイズの稚魚 159.8kg を取り上げた。

表１　種苗生産の概要

日齢	0 ～ 10 ～ 26 ～ 44 ～ 118
ふ化	◎
外池に収容	◎
注水	←――――――――――――――――→
アユ用粉末飼料給餌	←――→
コイ用粉末飼料給餌	←――→
コイ用クランブル飼料給餌	←――→
出荷	◎

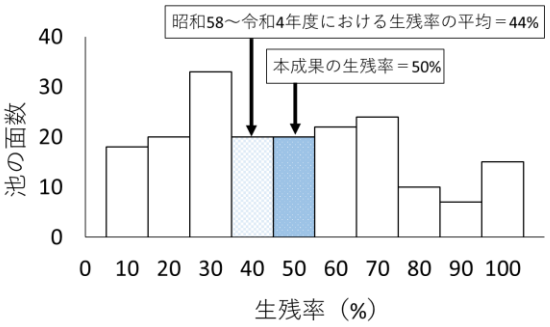

図１　従来と本成果の生残率

4　成果を得た課題名

（1）研究期間　昭和 58～令和 4 年度

（2）研究課題名　淡水魚種苗企業化事業（ウグイ）

5　主な参考文献・資料

（1）昭和 58、60～平成 24 年度福島県内水面水産試験場事業報告書

（2）平成 25～令和 3 年度福島県内水面水産試験場事業概要報告書